

## 合同研修先

## 北海道夕張郡由仁町 ゆにガーデンにて

### 小さな町の 大きな知恵と 決断

合併への模索を経過し、平成21年より単独・自立の



行政視察研修 合同研修

道を歩み出した、由仁町・アイヌ語で「ユウンニ」温泉のある所から転化したと言われている。明治19年に初めて和人が入植し、次第に戸数が増え、明治25年に設村し今年が開町117年

を迎えると言う。人工は6300人強である。いたる所にアイヌ語が活かしていると感じる。

由仁町では町の活性化の為に、基幹産業である農業をはじめ産業振興とまちづくりを連動した事業が見事に開花した。それが日本最大級の英国風庭園「ゆにガーデン」―「ハーブのあるまちづくり事業」というテーマは、ハーブが健康産業をおこすための重要なアイテムとして注目されていること、ハーブ栽培という新しい農業に取り組むことで様々な産業興しやまちづくりにつながるものがポイントになった。農水省や建設省など大規模補助事業を組み合わせた事業計画やこの計画づくりと事業成功の為に支援として三井物産に業務委託したことは、この事業に賭ける町の意気込み

と見識の高さが伺える。ゆにガーデンは総工費46億5千万円で4年間の工期で平成13年に開園している。利用者は年間平均15万人で推移している。

## 行財政改革により 5億円の財源創出

ゆにガーデンの2階会議室で、町長・副議長・議運委員長他を囲んで町政全般について懇談させて頂いた。現町長は副議長を経験した後、平成19年に選挙で当選した。その時の公約が町長給与30%削減であった。その後職員自ら給与20%削減を申し出て実施したと言う。平成20年、行財政改革推進委員会を発足させ、内部の改革としてまず、町が痛みを受けようと改革があり、その後住民への痛みを求めた。町施設の使用料を無料から有料に、軽自動車税や固定資産税の引き上げを行った。又町所有の施設を指定管理に移行（ゆにガーデンも東武緑地株を指定管理者に）

## 徹底した住民との対話

思い切った行政改革が断行できた裏には町が住民の所に足を運びよく説明したり、よく住民からの話しを

聞くという姿勢が貫かれている。又「行政と議会がよく話し合うことが基本」との言葉が話されたが、これは基本でありながら改めて心にしみた一言だった。



行政視察研修 由仁町

